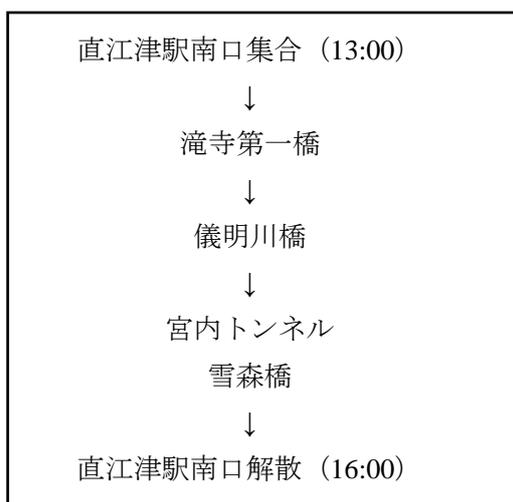


社会基盤プロジェクト・マネジメント現場見学会 実施報告

3年次の2学期には、道路・橋梁を例題にして、社会基盤施設の計画から設計、施工、維持管理までの一連の流れを学ぶ「社会基盤プロジェクト・マネジメント」の授業が開講されます。その事前学習として、高速道路の橋梁やトンネルの現場見学を、夏休み最終週の9月29日（木）に実施しました。当日は、東日本高速道路株式会社の社員の方よりご案内をいただき、上信越自動車道の4車線化工事が行われている上越及び妙高市内の現場を下記の行程で見学してきました。



上：儀明川橋 下：宮内トンネル

上信越自動車道は、関東と北陸を結ぶ重要な路線ですが、現在は長野県の信濃町インターチェンジから上越ジャンクションまでの間が暫定2車線での供用となっていて、交通安全上の問題だけでなく、混雑期や休日には渋滞が発生する状況が続いています。また、日本有数の豪雪地帯における冬季の安全で円滑な交通確保の必要性や、昨今、大規模災害時の緊急輸送ネットワーク確保の重要性が認識されるようになってきました。そのような背景のもと、平成30年度の完成をめざして4車線化工事が進められています。

今回の見学箇所では、いずれも供用中の高速道路のすぐ脇で追加2車線分の橋やトンネルが建設されていましたが、大きな地震災害を経て変更になった設計基準や、山間地を通すことで急変する地形条件が考慮され、構造の形式や詳細部分が既存部分とは必ずしも同じものにはなっていません。特に、橋桁と橋脚との接続を、支承によるピンやローラーではなく剛結のラーメン構造としていた点は個人的に興味深く感じました。

現場での説明に出てきた専門用語の一部は、おそらく学生にとって初めて耳にする言葉も少なくなかったと思います。しかし、このあと実施される社会基盤プロジェクト・マネジメントの講義の中で橋梁や施工に関する詳細が語られるので、現場見学で見聞したことは、授業の理解を深める上で大きな助けになってくれるはずです。最後に、ご案内いただいた東日本高速道路株式会社新潟支社信越工事事務所と各現場の皆様にご挨拶を申し上げます。

（文責：保坂吉則 / 2016/10）